第7回所蔵品によるテーマ展
「新収蔵品展②」

会期　平成24年1月3日（火）～1月29日（日）

	作家名	作品名	制作年(和暦)	備考
〔日本画〕				
1	―	世界図・日本図屏風 (福井県指定文化財)	16世紀(桃山時代)	展示期間1/3 ～1/24
2	藤原正吉	鷹図屏風	16～17世紀(室町～桃山時代)	展示期間 1/25～1/29
3	森寛斎	秋景山水之図	1880年(明治13年)	
4	岡不崩	秋艸花	1922年(大正11年)	
5	岡不崩	海岸松	1925年(大正14年)	
6	岡不崩	雪景図	制作年不詳	
〔彫刻〕				
7	―	如来坐像	6世紀(中国・北斉時代)	
8	―	樹下造像銘碑	570年(武平元年　中国・北斉時代)	
9	―	誕生釈迦仏立像	7世紀(飛鳥時代)	
10	―	菩薩七尊像	6世紀(中国・北斉時代)	
11	―	道教尊像	8世紀(中国・唐時代)	
12	―	如来坐像	9世紀(中国・唐時代)	
13	―	金銅十一面観音像	12世紀(平安時代)	
14	―	金銅蔵王権現立像	12世紀(平安時代)	
15	―	伎楽面・力士	9世紀(平安時代)	
16	―	持国天立像	12世紀(平安時代)	
17	―	仏手残欠（響堂山）	6世紀(中国・北斉時代)	
18	―	阿弥陀如来坐像	12～13世紀(平安～鎌倉時代)	
19	―	如来坐像	12世紀(平安時代)	
〔工芸〕				
20	―	金銅奏楽天人像杏葉	7～8世紀(中国・唐時代)	
21	―	金銅仏供台	12世紀(平安時代)	
22	―	金銅舎利容器	13世紀(鎌倉時代)	
23	―	金銅火舎香炉（蓋欠）	13世紀(鎌倉時代)	
24	海野秀珉	彩金翁面　表金具/毛彫沈金 携掛　裏座金具	明治後半頃～1956年（昭和31年）	
25	海野秀珉	彩金御多福面　表金具/沈金 毛彫匿蓑　裏座金具	明治後半頃～1956年（昭和31年）	
26	明珍吉久	鯉	制作年不詳	
〔経典・書〕				
27	村寄鴨畦	青山先生への手紙より	2007年(平成19年)	
28	―	紺紙金字大般若経 巻第二百七十八	12世紀(平安時代)	
29	―	装飾法華経（色紙経）	12世紀(平安時代)	
30	西山秋崖	寿慶	1986年(昭和61年)	

【岡倉天心コーナー】

1	横山大観	湖上の月	1920年（大正9年）	
2	横山大観	田家の雪	1937年(昭和12年)	
3	横山大観	聳雲表	1955年頃(昭和30年頃)	

※本リストと展示の順序は異なります。

第７回所蔵品によるテーマ展
「新収蔵品展②」

今回の所蔵品によるテーマ展では、昨年度に当館が新しく収蔵した作品のうち、日本画、彫刻、工芸、書の作品を紹介します。

1. 作者不詳　『世界図・日本図屏風』（福井県指定文化財）　※展示は1/24まで

本作は、桃山から江戸初期にかけて制作された八曲一双の屏風で、西洋の最新知識や風俗を取り入れたいわゆる「南蛮美術」のひとつです。世界図は楕円形の中に、大西洋を中心とした形で描かれています。色分けされた陸地には山や川、建物等が地名と共に描き込まれ、海上にはスペインやポルトガルを起点とする航路が記されています。地形はかなり正確に描かれていますが、オランダのオルテリウスが1570年に刊行した「世界地図帳」等を参考にしたのではないかといわれています。一方、日本図は周囲に金雲を配して描かれており、画面右上にあるのが北海道の一部、左上が朝鮮半島の一部ということがわかります。奈良時代の僧行基が制作したと伝えられる行基式地図を基にしていますが、さらに実際のものに近い地形となっています。世界図・日本図屏風の作例はかなりの数が確認されていますが、桃山時代にまでさかのぼると、東京・個人本（重文）、福井・浄得寺本（重文）と長らく県内の旧家に伝えられてきた本作のわずか3例しかなく、そのうちの2点が福井県内で所蔵されていたということは注目すべきことです。これらの3作は、形態や描写方法が極めて近似していることから、いずれも同一工房ないしは近い関係の絵師によって制作されたと考えられています。

2. 藤原正吉　『鷹図屏風』　※展示は1/25から

様々な姿態をした鷹の図を、六曲一双 の屏風に押絵貼にした作品です。作者の藤原正吉は伝歴不詳の人物ですが、使用印から武人画家ではないかと言われています。岐阜市歴史博物館やベルリン国立アジア美術館に所蔵されている作品は、いずれも鷹図であることから、作者はこれを得意としたものと見られます。

3. 村寄鴨畦　『青山先生への手紙より』

村寄鴨畦（1925～）は福井県を代表する書家の一人で、日展に所属しています。20代の頃から青山杉雨に師事し漢字表現を習得しましたが、2002（平成14） 年から、個展や日展で漢字仮名交じりの調和体の作品を発表するようになって以降、調和体を自らのスタイルとして制作活動を続けています。この作品は、2008（平成20）年に当館で開催された第39回日展福井展に出品された作品です。

4.西山秋崖　『寿慶』

西山秋崖（1903～1988）は本県の上志比村に生まれ、上京して近藤雪竹に師事、中央書壇で活躍し頂点を極めました。戦後は福井で書会を創立し、書道の普及や人材育成にも力を注ぎました。本作は篆書、行書を対比させた二曲一双の屏風で、没後10年を記念して当館で開催された遺作展に出品されています。